

優しい風の吹く街

6月定例議会が終わりました。今回の第一の争点は「乳幼児・子ども医療費」についてでした。当初の市の素案から、4月の「市民と市長の対話ひろば」で出た声をふまえて、当初案を修正した見直し議案が提案されました。宝塚市立病院の小児科入院医療や子ども発達診断ができる医師の配置も進んでいます。本市の小児医療全体の拡充を期待して見守ります。

また、地域児童育成会育成料は長年

8,000円でしたが、12,000円とする案が出されました。私は激変緩和として10,000円とする修正案を提出し、修正案が可決されました。減免幅の拡大もおこなわれます。

ナチュールスパは6月末で一時休館しますが、新たな温浴施設としての道を展望できる財源を確保することができました。

当初予算では計上されていなかった宝塚ハーフマラソン大会も実施決定しました。

乳幼児・子ども医療費

年齢区分	通院・自己負担	入院・自己負担
0才	なし	なし
1才～小学3年	1回200円（月2回まで）	なし
小学4年～高校3年	1回400円（月2回まで）	なし

- 全年代・低所得者は自己負担なし 月3回目からは自己負担なし
- 高校生の通院への助成開始 3割負担から1回400円に
- 小児科医によるLINE 24時間無料相談を導入予定

地域児童育成会育成料

区分	育成料
生活保護・非課税世帯	0円
想定年収 400万円未満	5,000円
～750万円未満	7,500円
750万円以上	10,000円

- きょうだい減免 2人目半額、3人目0円
- 待機児童対策や保育環境の充実を進める



1 都市計画道路荒地西山線整備事業

<質問>

工事の長期化から近隣住民の不安の声も聞かれるが、順調に進んでいるのか。

<市長答弁>

2024年度に本線部分の大型建造物が完成し、現在は側道歩道工事や湧水対策をすすめている。2028年度末完成、供用開始をめざしている。

<質問>

小林工区の工事が終了しても、宝塚ゴルフ倶楽部場内から逆瀬川と白瀬川分岐点を抜ける千種工区が残っている。切れ目なく県の工事としておこなっていけるのか。さらに県道と市道の交換は。

<市長答弁>

千種工区は、県策定のひょうごインフラ整備プログラムの事業調整箇所として位置づけられている。市は地質調査、予備設計、地籍調査など行う。県道と市道の交換に関する確認書も締結。

<技監答弁>

県と市は今年度も事業調整会議を行い、千種工区の早期事業着手に向けてしっかり調整していく。

<2次質問>

千種工区工事の逆瀬川への影響について。

<都市安全部長答弁>

ミヤマアカネやホタルの住む逆瀬川の生態系、土木遺産となっている護岸への影響がないよう配慮する。

2 阪急小林駅周辺環境整備

<質問>

小林駅前公園は1968年(昭和43年)に都市計画決定がなされ現在に至る。しかし結局、計画決定から50年以上も、駅前整備が実行されないまま、本年3月に「都市計画公園見直し」の考えを地域住民に示されたことに対する見解は。

<市長答弁>

駅改札口の増設や移設が困難であることを踏まえロータリーを整備するのではなく既存の施設を活かしながら公園を整備する考えを示した。そのため宝塚市都市計画公園見直しガイドラインに沿って計画の見直しを進めていく。

<質問>

小林駅周辺を「弱者にも利用しやすい優しい駅前」にするための施策を進めることは市の責務ではないか。

<市長答弁>

現在、改札口付近は、送迎などで車の寄り付きが難しい状況。いますぐ改善できないが、課題認識した上で周辺の土地利用の変化にも注視していく。

<2次質問>

地域住民は、長きにわたり市との対話を重ねてきたにもかかわらず、市がこれまでの経過を蔑ろにしたと捉えている。市は、このような状況を打開して信頼関係を回復してほしいがどうか。

<都市整備部長答弁>

改めて説明を行い、より良い整備となるようとりくんでいく。



3 学校現場でのICT機器利活用

<質問>

授業をおこなう会計年度任用職員に校務用タブレットが配付されない状況が続いている。児童生徒用タブレットを用いてのデジタル教科書の提示は可能であるものの、事前の教材準備、職員室での印刷、校務支援システムの利用、職員間の情報共有等、校務の基本的な作業がおこなえない。端末の追加配備はできないか。

<教育長答弁>

導入時に比べ教職員数や故障対応が想定以上に増え、端末が不足している。運用改善に努める。

<質問>

校内のWi-Fiが届きづらい場所を解消し、どの教室でも安定してICT機器を活用できる環境整備が必要ではないか。

<教育長答弁>

特別支援学級の増加等により想定外の場所での利用が増えているが、直ちに一律の増設を行うことは困難。今後は既存設備の更新と併せて計画的な増設・改修にとりくむ。

<質問>

SNSによるトラブルでは誹謗中傷や人権侵害がおこなわれている現状があり、人の命が蔑ろにされる事態にもなりかねない。情報モラル教育を「人権教育」の中にきちんと位置づけるべきではないか。

<学校教育部長>

情報モラル教育は、相手の立場を考慮して発信することや、個人情報大切に扱うこと、誹謗中傷や差別的な書き込みをしないことなど、人権教育や生徒指導とも深く関わる重要な教育であると認識している。



<質問>

AI利用において、深い学びの実現や、効率的な事務処理が可能になっていく時代になった。しかしその反面、情報の正確性や妥当性を確かめることも必要である。教科書などの質の担保された教材以外を安易に使うことには慎重であるべきで、一人ひとりの豊かな感性や独創性を育む、表現や作品を大切にしていけるべきだ。児童生徒及び教職員の「生成AIの利用等に関する情報モラル教育」やガイドライン作成が必要ではないか。

<教育長答弁>

本市では、学校の教育活動において児童生徒による生成AIの利用は制限している。今後「学校園における生成AI利用のガイドライン」を策定し指針を示し、授業での活用、教職員の働き方改革への生成AIの利活用という観点でとりくむ。



4 視覚障がい者の福祉サービス

<質問>

障がい者が高齢になると、障害福祉サービスから、介護保険サービスが優先と決められておりそれまで利用していた同行援護が受けられなくなる現状について改善できないか。

<市長答弁>

65歳となると介護保険サービスが優先となる。一方で、余暇支援などの障がい固有のサービスについては、障害福祉サービスを利用できる。

北野さと子の意見

●同行援護と介護サービスを併用できることを知らない人がいる。説明を十分にしてほしい。

●高齢化の中で、視覚だけでなく聴覚との重複障がいとなった人が増えてきている。その対応として、会議や陳情では「アシストフォン」機材を使用しているが、必要なワイヤレスアンプが高額のため、必要な数の確保ができない。市として、機材準備や助成の検討を求める。

<質問>

新たな福祉の拠点では、障がい者の交流や、スポーツの機会確保をすすめていくことができるのか。

<市長答弁>

新たな福祉の拠点では、年齢、性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、すべての人が自然と集い、交流したいと思えるようなことを媒介にして、他者を理解するとともに、自分らしさに気づき、安心して社会とつながるきっかけづくりにとりくむ。

活動カトピックス

6/28

第4回レインボープライドたからづか
「ありのままに 自分らしく
生きられるまち宝塚」

人権と多様性を尊重する社会をめざして
開催した。



風のこころ

宝塚市は、来年1月の「20歳のつどい」を宝塚大劇場で実施すると発表した。

本市のシンボルの大劇場で、宝塚らしい成人のつどいになるのが楽しみである。

私も議会で何度も大劇場開催を提案してきたので感慨深い。

